

「進学問題と教育支援 —ニューカマー児童・生徒の場合」



乾 美紀（兵庫県立大学）

2012年11月7日(水)

大阪女学院大学国際共生研究所公開研究会
「教育における国際共生」

本発表の狙い



- ニューカマー児童生徒が高校進学、大学進学を果たすためには、どのようなことが問題になっているか、そしてどのような教育支援が必要かを明らかにする。

□ 研究の方法

ニューカマー生徒および保護者へのインタビュー調査

調査の場所: 神戸市東部の外国人多住地域、NPO法人『こうべ子どもにこにこ会』が活動している地域
(発表者は、月に2度程度、学習補助教室でボランティア)

日本に増える「外国にルーツを持つ子ども (ニューカマー)たち」

ニューカマー: 新しく日本に来た外国人
外国人登録者

1972年: 74万人 → 2010年: **213万人以上**

日本語指導が必要な外国人児童生徒数:
= 28,575人

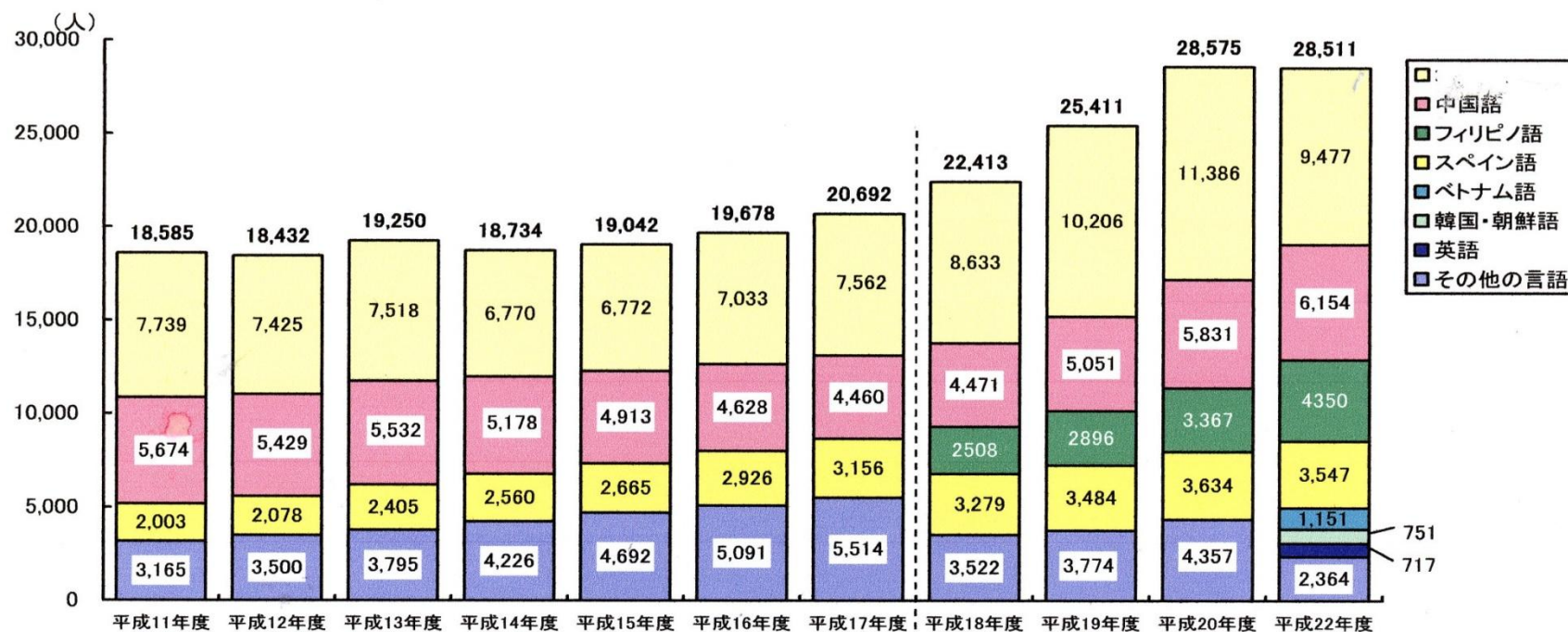
(近年の特色・問題)

(参照: 乾2008)

- 渡日した背景が異なる
(難民、出稼ぎ、帰国者、ビジネス、国際結婚)
- 不就学、進学、進路の問題 (高校進学は約50%)
- 都道府県により、進学率も受験制度も異なる

外国人児童生徒の母語

図3 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況

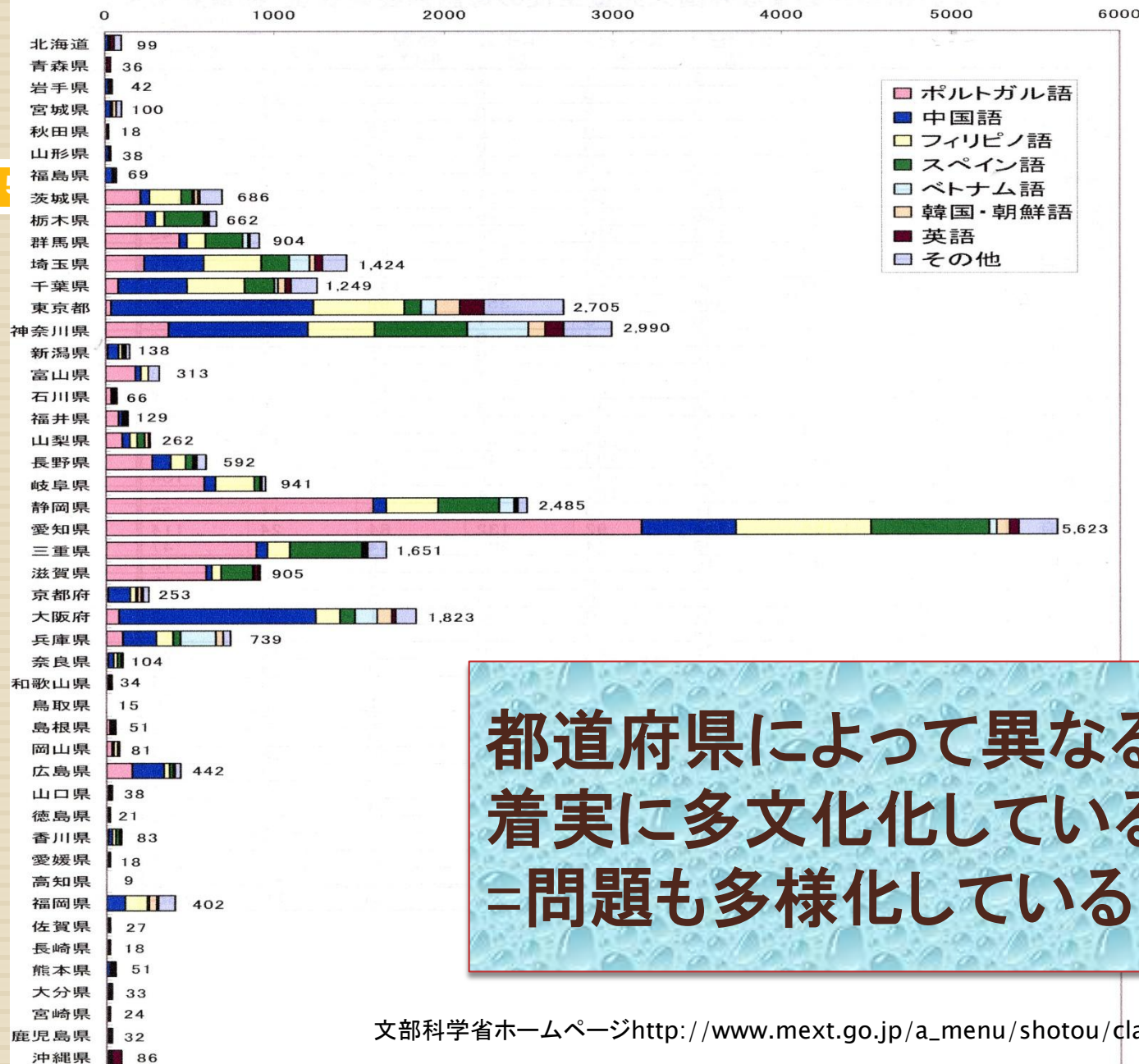


※表示する言語については、当初のポルトガル語・中国語・スペイン語に、平成18年度調査分よりフィリピン語を加え、平成22年度調査分よりさらに韓国・朝鮮語、ベトナム語、英語を加えて表してある。

文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/genjyou/1295897.htm

②ー2 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況(都道府県別)



県別母語別在籍状況

都道府県によって異なるが、日本は
着実に多文化化している
=問題も多様化している



高校進学が不利な要因

6

- 家族の不在が多くサポートを受けることが難しい
(宮島・太田 2005)
- 日本語能力が低いために「低学力」とみなされている(太田 2005)
- 家庭の経済力が及ぼす影響が大きい(田房 2000)
- 自らが所属するエスニック集団に成功したモデル
がない(田房2005)
- 日本の高校入試制度が困難(Sellek 2001,
Hirayama et al. 1995)

当事者たちの見解はどうか？

研究の方法

7

□ 調査対象

子ども (8名)	
ペルー	4 (p1- p4)
フィリピン	3 (f1 - f3)
ブラジル	1 (b1)

□ 質問)

高校に進学した時のことを
自由に語ってみてください。



進学について答えた時に、キーワードとなった言葉を示し、自身の進学に
どのような影響を与えたかについて整理して記す。

保護者 (6名)	
ブラジル	3(B1-B3)
アルゼンチン	2(A1-A2)
ペルー	1(P1)

子どもの進学について不安なことは
ありますか。それをどうしようとして
いますか。

キーワード	進学が難しかった場合	進学できた場合
経済的な問題 8	希望の大学には行けなかった。家庭の経済状況が悪かったので、アルバイトをして勉強の時間が作れなかった。勉強の時間が足りなくなった(p2)	- 学費を気にせずどこでも進学していいと言われている(f1ー国際結婚で来日) - 高校ではNPOから奨学金をもらった。浪人時は授業料半額免除だったので予備校に行けた(p3)
学力	勉強が難しくて公立の普通科には行けなかった(定時制に進学)(p1) - 歴史の勉強についていけなかったので、歴史の試験がない学校を受けるしかなかった(f1) - 日本語の勉強が全然理解できない。 →カナダの高校に進学する予定(f2)	- 高校に入って急に難しくなったが、ある先生に励まされて勉強を見てもらった(p3)。 - 中学校に行ってから塾でもかなり勉強した(b1) - 勉強については、言われたことを着実にこなした(p3) - 小学校の先生が個人指導をしてくれた(b1)
学習支援	もっと勉強したかったが、学習支援の通訳(学校のサポーター)の人と合わなかった(p1)	NPOや教会の学習補習教室に参加 そのことが、とても役に立った(p2,p3,b1)
制度の理解	- 親が入試の制度が分からないので、どう説明してよいか分からなかった(p3) - 親のためのガイダンスがないので、親が理解できていない(p2) - どんな高校があるか情報がない。私立と公立のシステムが分からない(f3)	- 親戚に入試の情報を教えてもらったので対策ができた(p1) - 帰国子女枠が適用されるという情報を得て、推薦の手続きをした(p4) - 高校の先生が今の大学を教えてくれたので、試験を受けることができた(b1)

学力- 目に見えにくい問題①

9

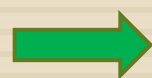
講師がボランティアをしている学習支援教室
ハルミ(仮名)の場合 → 5年生になって初めて教室に...
4歳の時にペルーから来日。日本人のように話す。

□ 漢字がきちんと書けている

実はほとんど読めない。文字をコピーしているだけ。
本の音読はできないが、テストでは見過ごされている。

□ 基礎的な計算はよくできる

文章題はほとんどできない。算数の用語の概念の理解が
難しい＝学習言語が理解できていない。



ボランティアによる発見！

学力- 目に見えにくい問題②

10

□ 学習言語の理解が難しく学力が定着しない

日常言語（分かる）	学習言語（分かりにくい）
（習得に2～3年）	（習得に5～7年）
分ける	割る
全体のうちの部分	割合
答えは何でしょうか	値を求めなさい

➡ 母語の認知発達が足りない場合、学習言語の習得が困難

□ 家庭と学校の乖離・学校文化の違い

親が宿題を見ることができない。家では母語での会話が深い
学年が進むにつれて、大きな問題となってしまう...

調査結果)保護者からの回答

11

現在の問題点(不安な点)	解決のための手段
日本の進級制度に不安。高校直前で、学力がないことが分かると行き先がない。(P1、B1)	ペルーの高校に進学 ブラジルの高校に進学
経済的、学力的に心配(B3)	ブラジルの高校または、日本のインターナショナルスクールへの進学
入試のことが分からない(A2)	アルゼンチンの高校に行って欲しい
高校に進学できるか不安(B2)	親としては中高一貫校を希望(受験がない)
独学で進学できればいいと思っている。(A1)	まだ分からない。(南米の学校はストが多いので、日本がよい)

保護者の回答の傾向

12

□ 保護者としての限界

入試に関する情報入手 - 母国から入手

子どもの学力

教育制度の違いへの違和感(進級制度、受験)



正規のルートで高校に進学することの難しさ



(母語を武器にして、母国で進学)これまでの支援は...

国内での「国際共生」=外国人の子どもが
教育を享受できていない傾向

高校進学のための支援の課題

13



- 経済的な問題
- 学力・学習支援

サポートは小学校で終わってはならない。(学習進度が速くなるが、ケアが薄くなる中学校は要注意〔不登校生徒の例〕→**支援の継続・接続**

- 入試制度：情報の提供

(自分に合った情報を入手できていない⇒日本の教育への不信)

回答例) 成功した子どもに見られる発言

国際共生を目指すために①

14



入学時の優遇＝**まずは入口から**

高校進学）大阪府の取り組み（高い進学率）

入試特別措置：受検時間1.3倍、辞典2冊持ち込み可、ルビ打ち、母語による小論文、作文のテーマのキーワードとに外国語を併記、

- ✕ **特別入学枠**：5高校が、小学4年以上に編入したニューカマーに「特別枠」を設けている。（大阪府の例）

（参照：佐久間2011）

誰が誰に伝えるか？情報の提供こそ第一歩



大阪市

地域には、国籍や民族の
異なる人びとが暮らしています

お互いの違いを認め合い

多文化共生社会をつくりましょう!

〔大阪市人権啓発ポスターデザイン・キャッチコピー募集〕 大阪市長官／柳シンプル 西田陽一さん

2010年度高校入試特別措置

(出所:中国帰国者定着促進センターHP)

	全日制高校について				定時制高校について			
	中国帰国生徒		中国帰国生徒以外の 外国籍生徒		中国帰国生徒		中国帰国生徒以外の 外国籍生徒	
	入試 特別措置	特別入学 枠	入試 特別措置	特別入学 枠	入試 特別措置	特別入学 枠	入試 特別措置	特別入学 枠
北海道	△	×	△	×	△	×	△	×
青森県	△	×	△	×	△	×	△	×
岩手県	△	×	△	×	△	×	△	×
宮城県	○	×	○	×	○	×	○	×
秋田県	△	×	△	×	△	×	△	×
山形県	△	×	△	×	△	×	△	×
神奈川県	○	○	○	○	○	×	○	○
愛知県	×	○	×	○	×	×	×	×
大阪府	○	○	○	○	○	×	○	×
三重県	△	△	○	○	△	△	△	△
兵庫県	○	×	○	×	○	×	○	×
福岡県	○	○	○	○	○	×	○	×

措置あり○
措置なし×
その他(状況によ
るなど) △

日本における国際共生を目指すために②

17

入学後の(ハードの)対応

□ 校内サポート体制の確立

大阪府：日本語教育に関わる人材（加配教諭、特別非常勤講師、通訳等の配置

□ 母語教育の実施（母語での学習）＝単位化

□ 家庭環境、経済事情への配慮（奨学金の情報供など [NPO奨学金、低利子奨学金]

□ 進学情報の積極的な提供（特別措置制度、定時制 高校など学校の種類、 親と子どもへの詳細なガイダンス）

終わりにー国際共生を目指して

18

- 
- 将来に繋げるため、中学校に進学してからもサポートを継続できるような環境作りが必要。
 - NPOなど地域と学校の連携は必須。(学習指導、奨学金、入試のための情報提供)



時間軸と空間軸の連携

- 日本社会全体で考えたいこと
必ずしも進学が共生への手段か？
中学を出ても働ける道もあることを示したい

参考・引用文献

19

- 乾 美紀(2008)「高校入試と入試制度」志水宏吉編著『高校を生きるニューカマー—大阪からの発信』第2章 pp.29－44 明石書店
- 太田晴雄(2005)「日本的モノカルチュラリズムと学習困難」宮島喬・太田晴雄編『外国人の子どもと日本の教育』東京大学出版会
- 佐久間孝正(2011)『外国人の子どもの教育問題』 勁草書房
- 田房由起子2000,「『難民』から『市民』へ」『外国人市民と政治参加』宮島喬編著 有信堂高文社。
- 田房由起子(2005)「子どもたちの教育におけるモデルの不在—ベトナム出身者を中心に」『外国人の子どもと日本の教育』東京大学出版会
- 宮島喬・太田晴雄(2005)「外国人の子どもと日本の学校」『外国人の子どもと日本の教育』東京大学出版会
- Hirayama, K., Hirayama, H. & Kuroki, Y. (1995)“Southeast Asian Refugee Resettlements in Japan and the USA, ”*International Social Work* vol.38, pp.165-176.
- Sellek, Y.(2001) *Migration Labour in Japan*. Palgrave.

Website:

中国帰国者定着促進センター (<http://www.kikokusha-center.or.jp/>)